

2 各教科の分析



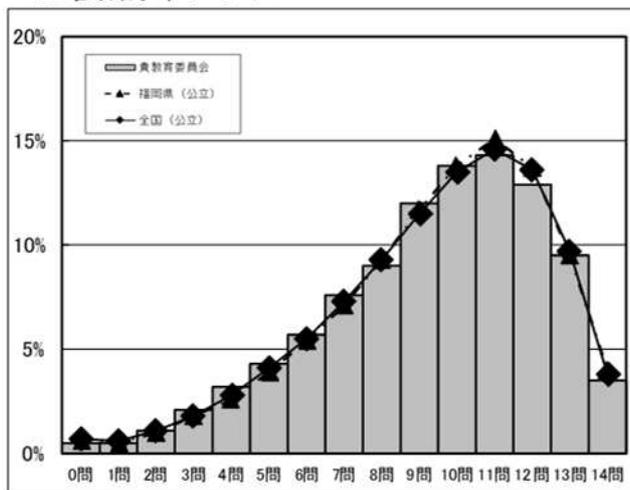
(1) 小学校国語

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [小学校 国語]

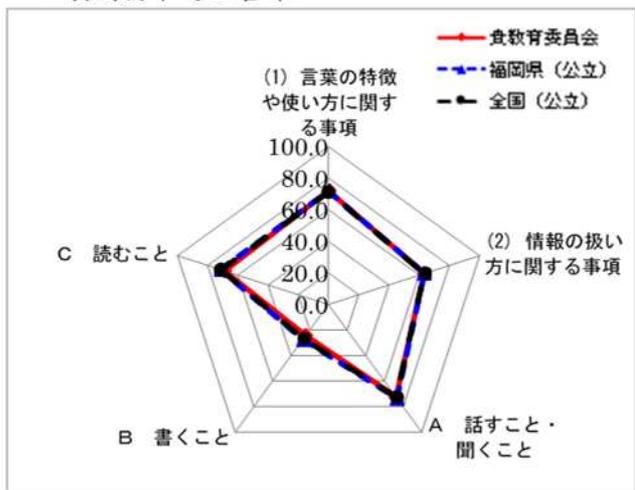
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,380	9.3 / 14	67	10.0	2.9
福岡県(公立)	43,025	9.5 / 14	68	10.0	2.9
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

<正答数分布グラフ>

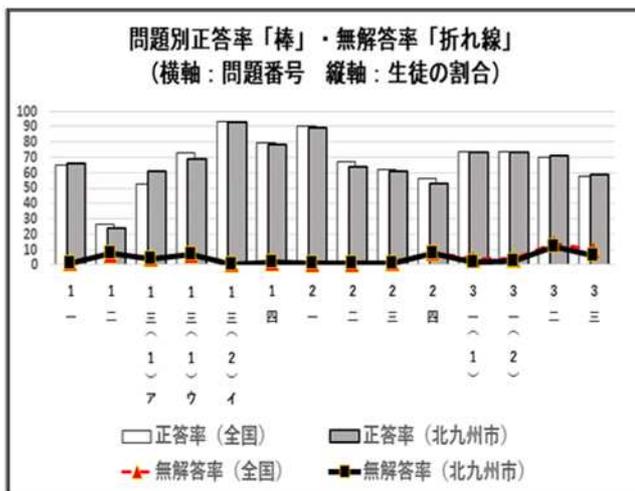


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)	
全体			14	67	68	67.2
学習指導要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.8	71.7	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.3	63.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.4	73.5	72.6	
	B 書くこと	1	24.2	27.5	26.7	
	C 読むこと	3	68.8	71.6	71.2	
評価の観点	知識・技能	7	69.4	69.3	68.9	
	思考・判断・表現	7	63.9	66.1	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	72.9	74.1	73.6	
	短答式	2	64.6	63.0	62.7	
	記述式	3	49.3	51.9	51.1	



<結果>

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、99.7%であった。(昨年度 97.5%)
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての正答率は、全国平均を上回っている。(全国比+0.6)
- 「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の正答率は24.2%で全国平均を下回っている。(全国比-2.5)

<今後の授業改善の方向性：方策>

- ・ 「知識及び技能」について、これまでの取組の成果が表れてきている。今後も ICT 等を活用して、個や必要に応じた補充・発展的な学びの機会を充実させていくとともに、意図的に「知識及び技能」を活用させる活動を設定する。
- ・ 図表やグラフ、文章など、複数の資料から必要な情報を見付けたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりしながら書くことができる場を日常生活と関連付けながら設定する。

出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

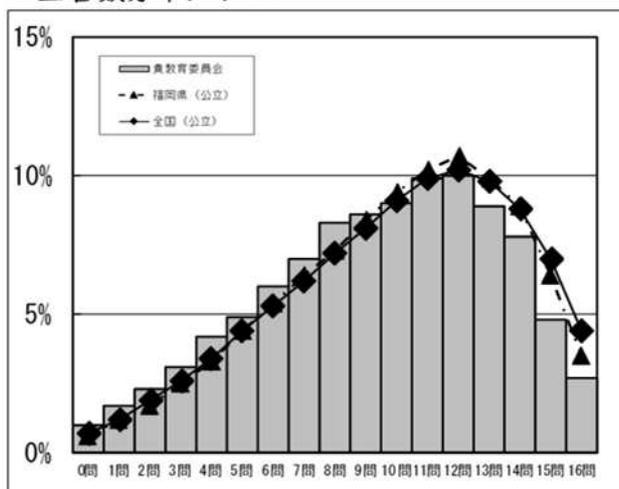
(2) 小学校算数

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [小学校 算数]

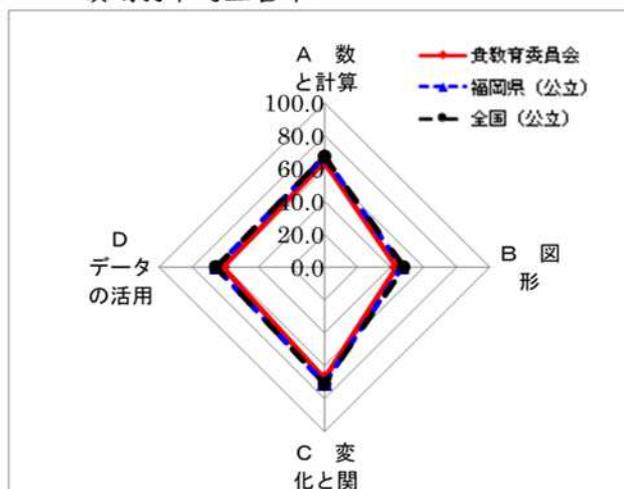
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,381	9.4 / 16	59	10.0	3.8
福岡県(公立)	43,043	10.0 / 16	62	10.0	3.7
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

<正答数分布グラフ>

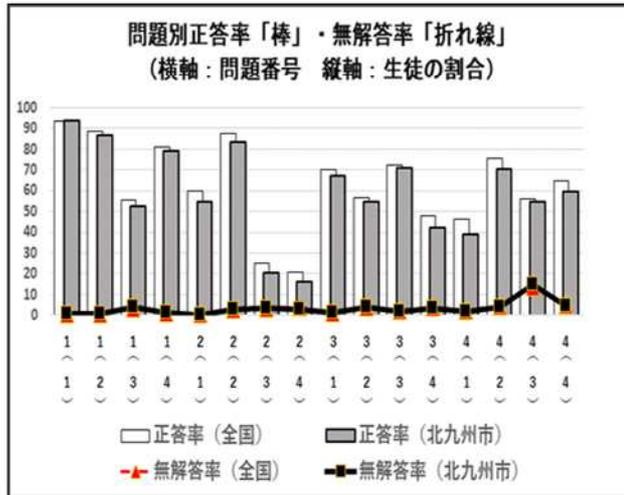


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			59	62	62.5
学習活動領域の領域	A 数と計算	6	64.0	67.1	67.3
	B 図形	4	43.6	47.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	67.8	70.8	70.9
評価の観点	D データの活用	3	61.5	65.6	65.5
	知識・技能	9	63.3	67.0	67.2
問題形式	思考・判断・表現	7	53.4	56.3	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	5	52.3	57.3	57.7
	短答式	7	71.9	74.6	74.7
	記述式	4	44.6	47.0	47.3



<結果>

出典: 文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

- 「C 変化と関係」領域については、本市と全国の前年度より縮まっている。(R4: -3.8, R5: -3.1)
- 問題形式では、「短答式」で、本市と全国の前年度より縮まっている。(R4: -3.6, R5: -2.8)
- 「図形」領域の正答率が全国平均を下回っている。(全国比-4.6)
- モデル文(雛形)に沿って解答を記述する問題の正答率は、54.7%と課題が見られた。(全国比-1.5)

<今後の授業改善の方向性: 方策>

- ・ 図形の見方・考え方を働かせながら取り組むことができる活動場面を設定する。
- ・ 数学的に表現し、伝え合う活動の場の充実を図る。
 - 言葉や図、数、式、グラフなどを適切に用いて、思考の過程や判断の根拠などを表現したり、説明したりする活動を取り入れる。

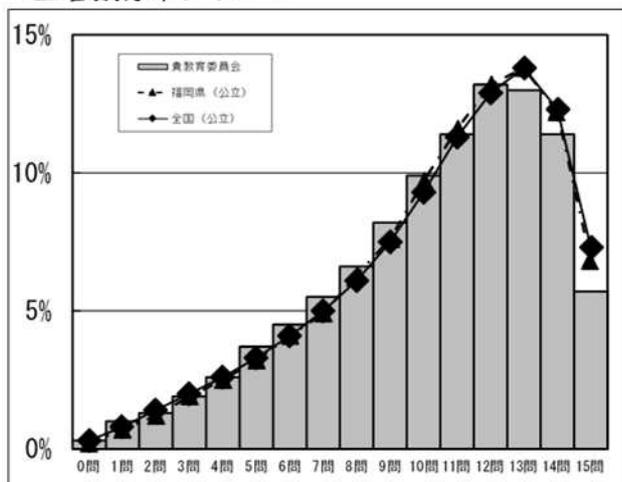
(3) 中学校国語

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 国語]

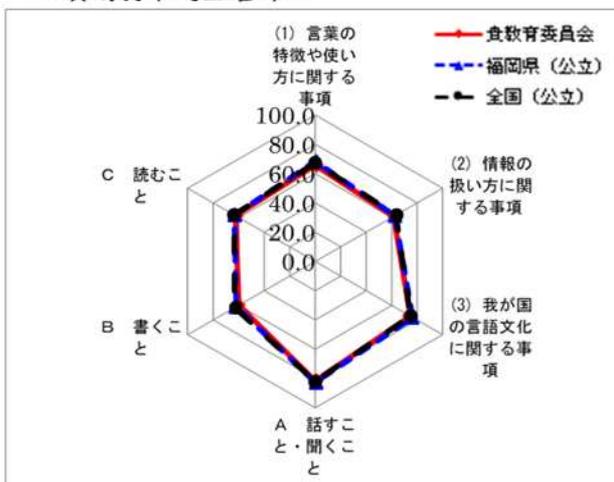
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,690	10.3 / 15	68	11.0	3.4
福岡県(公立)	39,798	10.5 / 15	70	11.0	3.3
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

<正答数分布グラフ>

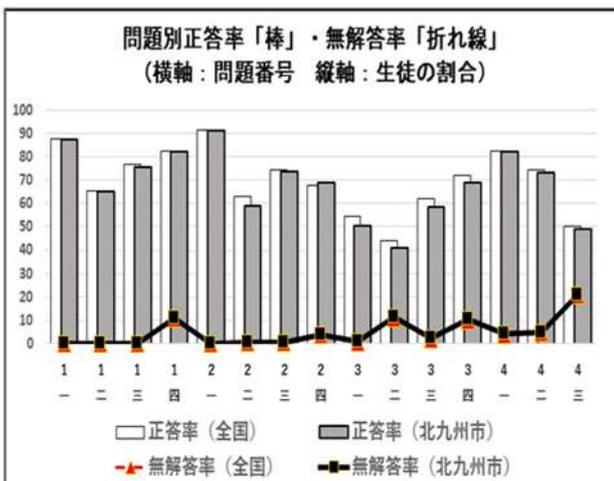


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			県教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)	
全体			15	68	70	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	65.9	68.3	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.6	62.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	74.7	76.6	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	81.7	82.8	82.2
		B 書くこと	2	59.8	61.9	63.2
		C 読むこと	4	62.6	63.4	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.4	70.2	69.4	
	思考・判断・表現	9	68.4	69.5	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	71.7	72.5	73.1	
	短答式	4	63.6	66.5	65.6	
	記述式	4	67.3	68.5	68.0	



<結果>

出典: 文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、97.4%であった。(昨年度 95.9%)
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っている。(全国比 102.0%)
- 領域別全国比「話すこと・聞くこと」99.4%、「読むこと」98.3%に対して、「書くこと」94.6%で「書くこと」の領域において課題が見られる。
- 問題形式別全国比「選択式」98.1%、「記述式」99.0%に対し、「短答式」の正答率が97.0%と低くなっている。

<今後の授業改善の方向性: 方策>

- ・ 1つの文章を効果的に読むだけでなく、複数の文章を比較しながら読むことなどの活動を通して、それらの特徴が文章全体の特徴にどのように関わっているかを考える場面を設定する。
- ・ 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物との設定の仕方などを捉える活動を通して、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を図る。

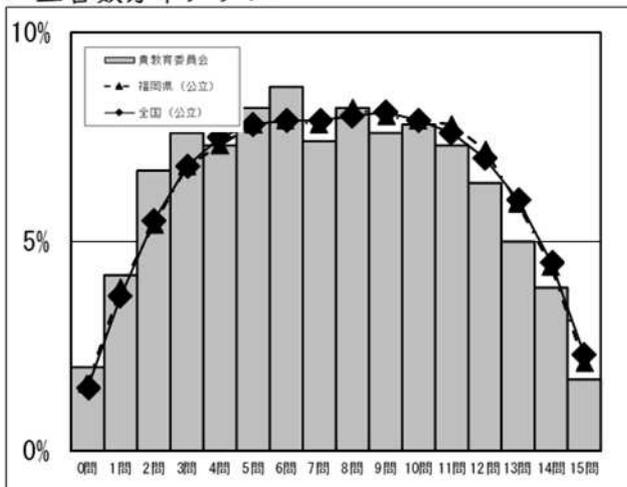
(4) 中学校数学

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 数学]

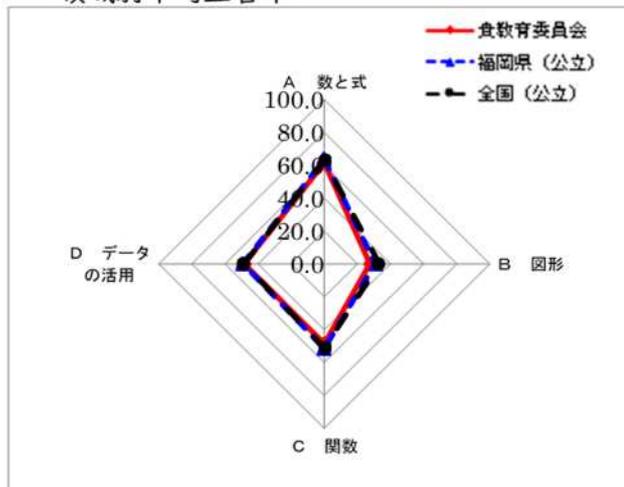
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,701	7.3 / 15	49	7.0	3.9
福岡県(公立)	39,801	7.6 / 15	51	8.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

<正答数分布グラフ>

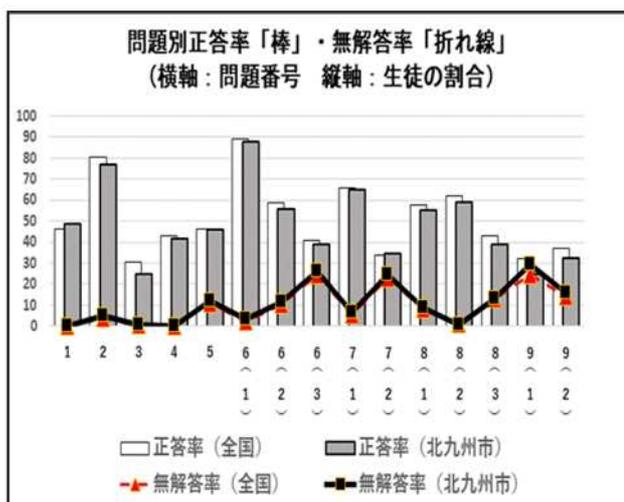


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			49	51	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.4	63.7	63.0
	B 図形	3	27.5	30.6	33.2
	C 関数	4	48.6	51.4	51.2
	D データの活用	3	48.5	49.1	48.5
評価の観点	知識・技能	10	53.7	55.2	55.7
	思考・判断・表現	5	38.5	42.2	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	43.6	45.1	45.3
	短答式	6	60.4	62.0	62.6
	記述式	5	38.5	42.2	41.6



<結果>

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、96.0%であった。(昨年度 92.0%)
- 「知識・技能」を問う問題において、本市と全国の平均正答率の差が昨年度より縮まっている。(R4: -5.4、R5: -2.0)
- 「データの活用」領域で全国比 100%と昨年度から上昇している。(昨年度 97.0%)
特に、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する記述式の問題で全国比 102.0%と全国平均正答率を上回っている。

- 「図形」領域の「思考・判断・表現」を問う記述式の正答率が低く、無解答率が高くなっている。

<今後の授業改善等の方向性：方策>

- ・ GIGA端末を活用し、図形の大きさや形を変えるなどの操作活動や観察を通して成り立つ事柄を見いだす場面等を設定し、問題解決における学びの充実を図る。
- ・ 授業の終末や自主学習の時間に、練習問題に取り組む活動を確保して、学習内容の習熟を図る。

出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

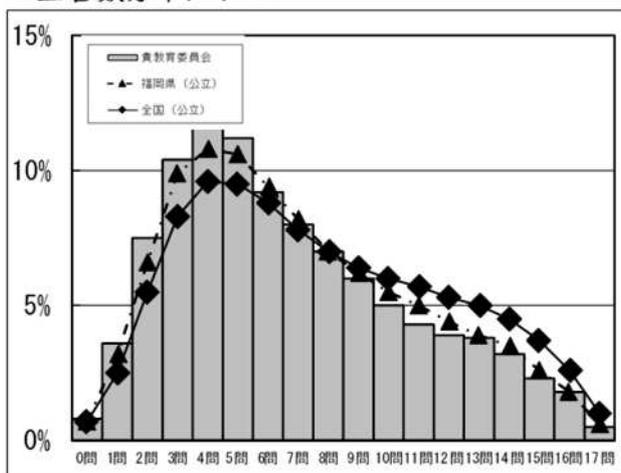
(5) 中学校英語

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 英語]

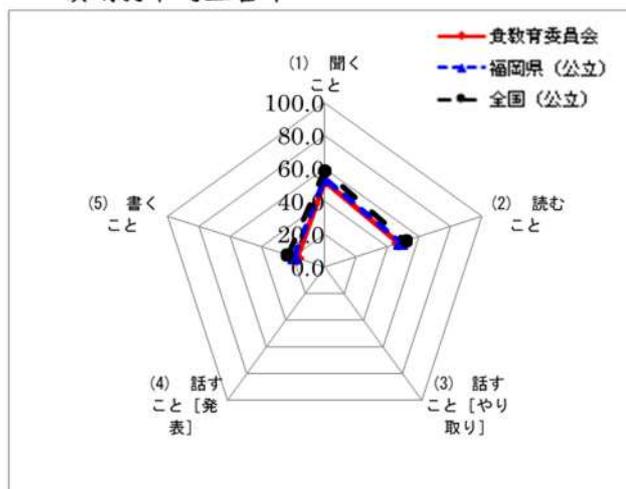
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,705	6.8 / 17	40	6.0	3.9
福岡県(公立)	39,825	7.1 / 17	42	6.0	4.0
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

<正答数分布グラフ>

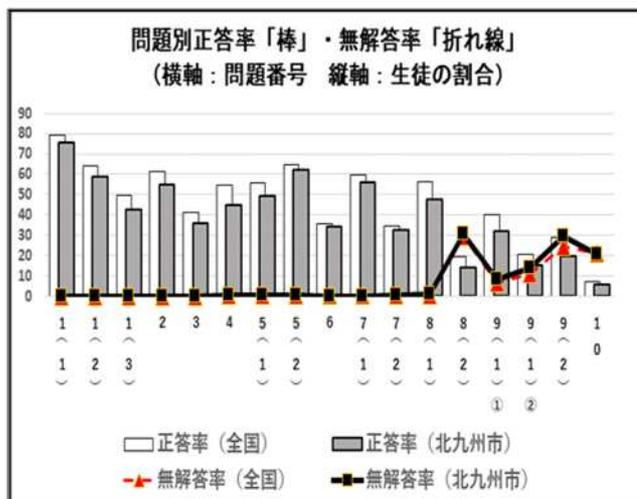


<領域別平均正答率>



<区別別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			真教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			40	42	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	52.1	53.8	58.4
	(2) 読むこと	6	47.0	48.2	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	17.5	19.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	45.7	47.7	51.5
	思考・判断・表現	8	33.8	35.1	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	49.5	51.0	54.8
	短答式	3	22.4	25.6	30.1
	記述式	2	10.1	10.7	13.5



<結果>

- 「読むこと」の領域では、メールを読んで条件に合うイベントを選択する問題は全国平均との差が開いていない。(全国比 96.1%)
- 領域別に全国比をみると、「聞くこと」89.2%、「読むこと」91.8%に対し、「書くこと」は74.8%と書くことが最も課題が大きい。
- メールをの英文を依頼する表現に書き換える問題は全国平均との差が開いている。(全国比 68.6%)

<今後の授業改善の方向性：方策>

- ・ 授業では、聞いたり読んだりしたことについて概要や要点を捉える活動、また、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動、もしくは書く活動などが行われたと捉える生徒は全国平均より多い。今後は、これらの活動に加えスピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動、発表したことについて書くなどにおいて、正確性を求める活動の充実を図る。また、継続して「書くこと」の力を育成する授業改善の工夫を行う。

出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料